

公園調査地 クローズアップ!



調査地の中には日頃横浜市民の憩いの場となっている公園もあります。
その公園の管理などに関わっている企業の方に、管理の立場からのご意見
をお聞きしてみました。

入船公園 / (株) 日産クリエイティブサービス

入船公園：敷地面積5万4158平方メートル
ピオトープエリア1万平方メートル

生物多様性日本アワード受賞の反応は？

大変喜ばしく、誇りある賞を受賞したと思っています。年1回、ISO 14001での外部審査があるのですが、受賞の話をしたところ、担当の審査員の方から高い評価をいただくことができました。

社外にもニュースをお伝えしたく、近隣の小学校や幼稚園などに毎月配布している「入船公園通信」9月号でもお知らせしました（ネット上でも見ることが可能です）。これは1500部配布されている地元の方々への通信で、近隣の皆様へも受賞のニュースをお伝えできたと思います。

公園の管理やフォーラムの活動で気をつけていることは？

「トンボとり大作戦」では、いつもたくさん親子連れの方に参加していただいています。公園の中の草地ピオトープや水辺ピオトープ周辺で調査のお手伝いに協力していただいたあとは、公園内で楽しく過ごしていただいています。昆虫が喜らせるように野草を残して管理している草地で、いろんな生き物を見つけて楽しそうにしているご家族をよく見かけます。たくさんの方に楽しんでいただきながら自然も守る公園づくりを目指したいと思っています。



羽化直後のウスバキトンボ

本牧市民公園 / (公財) 横浜市緑の協会

本牧市民公園：敷地面積10万3336平方メートル
☆他に富岡総合公園、長浜公園の管理も担当

生物多様性日本アワード受賞の反応は？

私たちの公園管理における今後の取り組みを考える上で、1つのきっかけになったのではないかと感じています。受賞という形でこれまでの活動が客観的に認められたことは活動の推進にあたって大きな意味を持つてくると感じています。

公園の管理やフォーラムの活動で気をつけていることは？

平成30年度は、改めてとんぼ池周辺の環境を見直し、生物多様性機能の向上のための環境改善を計画しています。

私たちは公園管理者として、生物多様性について、地域の方や利用者が学ぶ場を提供するという役割があります。トンボフォーラムの活動は、楽しみながら生物多様性について知っていただき、公園に親しんでいただくための、重要な活動となっています。そのため、「トンボとり」をするだけのイベントにならないように気をつけています。

トンボに関する公園のイベントは自然観察会（6月、10月）、ザリガニ釣り（プールで救出したヤゴを放流するため）、水田づくり（稲刈り）ヤゴを育む環境づくり）などがあります。トンボのみならず自然環境について学ぶ機会にもなっており、リピーターを含むたくさんの方が参加しています。

こうした催しを通じ、より多くのみなさんへ身近に生物多様性や環境に対する意識を啓発できているのではと感じています。



シオカラトンボ